

【議題】

あいさつ

- 1 地域力応援基金助成事業について
  - ①ステップアップ・ジャンプアップ助成事業〔新規・特別枠〕審査員の選出
  - ②ステップアップ・ジャンプアップ助成事業 経過観察員の選出
  - ③スタートアップ助成事業の進捗状況
- 2 調査研究テーマ「自治会・町会の現状と連携・協働ニーズ」について
- 3 調査研究テーマ「基金事業の見直し」について
- 4 その他

【出席者】

勝又委員 加藤委員 内藤委員 中島委員 石垣委員 石川委員  
平澤委員 牛山委員 山本委員

地域力推進部長 区民協働担当課長 地域力連携協働支援員 区民協働担当 2名

【会議録】

事務局 定刻になりましたので、平成26年度第3回大田区区民協働推進会議を始めさせていただきます。  
本日、委員11名中9名の方にご出席いただいておりますので、大田区区民協働推進会議設置要綱第6条に基づき、会議は有効に成立したことをご報告申し上げます。  
なお、議事録作成のため、本日の会議を録音させていただきますのでご承知ください。  
それでは、この後は、会長に進行をお願いします。

会長 《会長あいさつ》

部長 《部長あいさつ》

会長 それでは、会議をはじめさせていただきます。交代委員紹介と副会長選任を行います。

＜ 交代委員の紹介・副会長選任 ＞

会長 最初に地域力応援基金助成事業について、事務局より説明をお願いします。

事務局 ステップアップ・ジャンプアップ助成〔新規〕については、先月の6月16日から募集を開始し、締め切りは7月18日となっております。選考は、例年どおり、1次は書類審査、2次は公開プレゼンテーションとなり、1次通過団体に10月18日に区役所に集合いただき、公開プレゼンテーションを実施します。その後、当会議の中で区長推薦事業を確定いただき、最終的に採択団体を決定します。審査は、8月ひと月で書類審査、9月上旬に書類審査のすり合わせ、1時審査通過団体を決定、公開プレゼ

ンテーションでの審査員と終了後のすり合わせ、最終的な審査採択団体決定となります。審査委員3名を選出いただきたいと思います。また、ジャンプアップ助成〔特別枠〕についてですが、テーマ検討している「自治会・町会の現状と連携・協働ニーズ」で見出そうとしているモデル事業をジャンプアップ助成事業〔特別枠〕と位置付け、必要な費用を助成していこうとするものです。申請期限は定めず、準備ができ、助成金が必要であれば、随時申請を受け付けていこうと考えています。直接事務局が団体とヒアリングを行いながら実施していますので、面接は省略したいと考えています。書類審査を行い、直近の推進会議にて審議・承認いただく流れとなります。こちらの審査委員は1名選出願います。それでは各々の審査委員の選出をお願いします。

#### ＜ 審査員の選出 ＞

- 会長 3名と1名が決まりましたのでよろしく申し上げます。  
次にステップアップ・ジャンプアップ助成事業の経過観察員の選出について説明ください。
- 事務局 昨年採択され本年度事業実施を行っている対象団体は5団体あり、審査委員を行った委員の方に担当いただきたいと思います。

#### ＜ 経過観察員の選出 ＞

- 会長 選出委員の皆様よろしく申し上げます。  
それでは、『自治会・町会の現状と連携・協働ニーズ』について説明をお願いします。
- 課長 昨年から調査を始めた経過と今後の展開についてあらためて説明を行います。

#### ＜ 区民協働推進会議の研究テーマによる取り組み資料に基づき説明 ＞

##### 資料 2-1

六郷地域力推進センターを中心とした地域による高齢者対策は、最終的には六郷地区全域に取り組み事業を拡大していくことを目的とした会（4町会を予定）を結成して取り組むものです。内容は、センターを中心として参加町会が主体となり、連携して実施する中心的な事業と参加自治会・町会が実施している事業を他の町会にも拡大していく事業です。連携協働相手の候補は、地域包括支援センター六郷中、東、介護事業所、介護系NPO、行政などになります。現在、実施スケジュール、概算費用、助成終了後の継続性等を検討しています。

##### 資料 2-2

自治会・町会のホームページ作成支援は、区民協働担当によるオーちゃんネット（簡易ホームページ）導入支援として、雪谷地区と蒲田西地区の2地区で出前型デモンストレーションを実施しました。9月に田園調地区でもデモンストレーションを行う予定です。ヒアリングを実施した結果、ホームページを運営したくても費用や運営人員等が確保できないということであきらめている自治会・町会が少なからずあることがわかってきましたので、簡単に着手できる手段として、初期費用なし、ランニングコストなしのオーちゃんネットの導入を提供していくことにしました。以降、要望のある自治会・連合会毎にデモンストレーションを実施していきます。単独ホームページの導入にステップアップする要望があれば、ボランティア団体等に繋げていきたいと考えています。

### 資料 2-3

地域防災拠点訓練事業としては、地域の学校避難所が拠点化し、その機能が高まって来ている中、訓練の際に災害ボランティアの受け入れや避難所での対応などについて、取り組みの重要性が確認されました。専門性のある団体などとの連携によって実態に合わせた訓練などの必要性が求められています。この訓練事業を実施しようとする団体と実施スケジュール、必要経費の概要等を確認しています。

### 資料 2-4

自治会・町会での人材確保に向けた取り組み事例調査・広報は、平成25年3月に出された自治会連合会あり方検討会中間報告からの課題の一つとして出されたもので、それを受け、昨年アンケート調査、自治会・町会へのヒアリング調査と現在に至っております。数年前から清掃活動を周辺の企業などにも声掛けを行い、毎月定期的に行っているという人材確保の協働事業の事例などもあります。今年中は引き続き現地調査を行い、最終的には内容の編集を行い、冊子のようなものにまとめられると良いと考えています。

会長 元はと言えば自治会連合会あり方検討会中間報告でまとまった三つの課題の一つが「人材確保」でした。他の分野もこれがすべて基本になります。方法が見つかれば、自治会・町会に新しい芽が出てくるようにも感じられます。自治会・町会は高齢化しており、考え方が古かったり、動きが鈍かったりすることも事実あります。しかし、高齢者は高齢者で生きがいをもって活動をしている人々もたくさんおりますので、排除せずに地域の中でいきいきと暮らせるように一緒に考えて欲しいと思います。

部長 今回組織改正があり、自治会連合会あり方検討会中間報告の課題1「人材確保について」は、連携協働担当において自治会・町会、その他の活動団体とで連携協働を模索していこうとするのは明るい素材であると思っています。今回の検討でモデル事業として他地域に拡大していけると良いと思います。課題2「事業の効率化について」も検討しており、回覧板やポスターの掲出も月2回の決めた日までに搬入するよう関係機関に通知をしているところです。お互いの状況をわかった上でやり方を決めることにしました。課題3「財政上の基盤強化」は、会費の確保や自治会・町会が抱えている負担金・分担金についても見直し、検討を図るとともにこういう時勢の中、自主財源事業などを構築することも必要であると考えています。

委員 説明いただいた事業は、ジャンプアップ助成事業[特別枠]で実施するものですか。

委員 はい。ヒアリングに入り、お話をお聞きしたり相談を受けたりしている中で進めています。

委員 今まで特別枠というものはなかったが、今回のモデル事業のために作ったのでしょうか。検証している団体を対象に実施していくということですか。

委員 ジャンプアップ助成事業[特別枠]は元々ある助成金制度で、区がテーマを決めてそれに当てはまる事業に助成を行っていこうとする制度の特別枠となります。

委員 この基金事業には自治会・町会はほとんどチャレンジしていません。活動団体とは違い、申請書作成が難しく諦めていた所でもあります。アンケート調査を行い、その中からピックアップした内容だと思います。ここからも簡単には自力で進んでいくことはできないと思います。今回、自治会・町会を引っ張り出すテストコースだと思っていただけますか。これでモデルケースが作れば、連携協働が進み、新しい道を歩み始める自治会・町会が出て来る可能性があるのです。

- 委員 今回の行政の役どころとしては、コーディネート役ということになると思います。自治会・町会だけでなく、NPOやボランティア団体なども高齢化で人材不足になっていると聞いています。お互いが役割分担を行い、必要な事業を実施できる形を作れば、地域課題解決が大きく前進すると考えます。
- 委員 私が興味を持ったのは、ホームページ活用における事業の効率化の部分です。これは助成金もいらずに、今ある制度をどのように活用するかになります。報告いただいた二か所だけでなく、展開を広げて欲しいと思います。同時にホームページを作るだけではダメで、掲示板や回覧板を代替するなどの活用をすることが重要なので、運用方法の指導方法も必要であると思います。アクセス数での導入結果の検証なども含め、うまく導入できた事例発表のようなことも行うと良いと思います。高齢の方は見ないかもしれませんが、若い人にとってはこれは見やすいと思います。回覧板や掲示板と並行して、費用をかけずにこちらにシフトしていくことも必要と感じます
- 委員 これまでも広報は行ってきました。しかし、声掛けや資料だけではなかなか取り組む自治会・町会が増えませんでしたので、今回、パソコンを持って出かけて行ってデモンストレーションを行う形を取ってみることにしました。お金はかからず手間だけかかる事業であります。特別出張所には出前デモンストレーションの話はしてありますので、今後も依頼があれば出かけていき拡大していきたいと思います。
- 委員 これはオープンソースのホームページですか。オープンソースというのは、サーバーにインターネットのブラウザからIDやパスワードで入り、直接更新することができるというものです。
- 委員 更新はパスワードが必要ですが、閲覧は誰でもできるというものです。入力画面が出ますので、その形式に入力していきます。簡易なホームページなので、パソコン操作ができる人ならホームが決まっているので、作成も更新も無理なくできると思います。見辛いなどの意見もありますので、もっと運用されたらご意見をお聞きしながら改善していきたいと考えています。ホームページの導入版としては初期はこれから入っていくので良いと考えます。紙ベースの回覧板は必要ですし、それと並行する形で提供できるツールになると地域の活動の情報提供や参加者募集などができるのではないかと思います。
- 委員 ジャンプアップ助成事業は、行政課題と地域課題が合わせて設定されていると理解しております。今回は特別枠ということで、自治会・町会が抱える課題を解決するというので、以前、観光の特別枠があったと思いますが、行政側も地域の区民活動団体側も試行錯誤しながらこの事業が定着するのであれば自立していただくか若しくは行政の支援を継続することで地域が豊かになるとか連携協働が進んでいくかを選択するのかなと思います。今回の事業終了時は、地域の中の企業との連携協働という道もあるかもしれません。寄付文化がまだまだ日本は育っていないかもしれませんが、構築できていくことによって、自立できる可能性も出てくると思うのです。防災の事例にある団体の経過観察を行った時、実際に災害があった時企業が資金援助をしてくれるかどうかは難しい面があると感じましたので、必要であれば防災課なども巻き込んで検証を繰り返すといいという視点で本日の説明をお聞きしました。
- 部長 ホームページについては、オーちゃんネットの登録、民間の町会専用情報サイトに登録、町会独自に運営しているところ合わせて217自治会・町会中の約40団体位の登録で留まっている状況です。今回はすでにあるものに目を向けていかに使ってもらうか、区民協働担当が自ら自治会・町会にアプローチしていくという方法、さらに効果的にしていくためには、18特別出張所の職員も自治会・町会に支援していくことができれば相乗効果を挙げていくことができると考えております。そのためにも特別出張所のホームページを更に充実させていかななくてはならないと考えております。お

おた未来プラン後期の中でもアクセス数を物差し指標として目標に掲げています。若い世代にもアプローチしていくために高める必要性を感じます。

委員 この事業は区民協働である程度できたら、後は特別出張所の方に任せてしまった方がいい内容であると思います。

会長 あることは知っていても活かしていく話を全然やっていませんでした。おっしゃるとおり特別出張所の方に持ってもらった方がいいと私も思います。

委員 「人材確保」に興味を感じます。人材がないというのがどこの地域も大問題となっています。お助けマンチームみたいな活動がどのように成立しているかなどももっと知りたいところです。

課長 先日も清掃活動に参加してきましたが、企業は各々ネームの大きく入ったユニホームを着て清掃活動を行っています。目立っていましたし、地域貢献をアピールできるなどメリットを上手く作って実施しています。ヒントがなくて「人材確保」に苦労されていると思いますが、調査するといろいろあると思いました。

委員 NPO連携協働の相手方とありますが、誰がコーディネートするのですか。

課長 区民協働の方でコーディネーター役をやらうと考えています。今までモデル事業というような所までなかなか踏み出せませんでした。

会長 今回ありがたいと感じているのは、行政が出前をしたということです。現地に出て来て私達に問いかけながら引っ張り出してくれたという声も聞いています。これからも出前をよろしくお願いします。

委員 この助成事業の原資は寄付金で成り立っていると思いますが、ジャンプアップ特別枠の助成事業についても結果報告はされるのですか。

事務局 毎年、年度毎に事業報告書を冊子にまとめ、寄付をいただいた方には報告を行っています。26年度のまとめに入りますし、ホームページでもアップしていきます。

委員 今回、六郷地域力推進センターの企画がありますが、大田区の鳴り物入りの複合施設ということで、一度見学に行きました。施設はりっぱで、空間も広くてすばらしいのですが、人の出入りが少ない印象でした。以前の駅に隣接している立地に比べ、アクセスは悪くなったという声も聞いています。イベントなどを常時行い、人に来てもらう活動をするというのはとても良いことだと思います。高齢者向けだけの内容でなく、子育ても含めながら実施して欲しいと思います。最初に作ったセンターですので、頑張りたいです。

会長 ごもったもなご意見です。現在、休憩場所にもできるので畳を入れたところです。サロンという形で飲み物なども提供したいと思いますし、いろいろ考えています。

委員 この施設内は、フロアによって、役所の所管が違うようです。上の階は、うぐいすネットで予約できる部屋と地域の活動のためにリザーブされている部屋に分かれていて、不思議な感じがしました。

委員 そういうスペースは、もう少しみんなに活用されるようになればいいですね。

会長 開所間もないので、少しずつ改善されていくのではないかと思います。空き室をその

- 課長 ままにしておくような発想はいけません。フルに使われるようにすべきだと思います。こういう取り組みで人を呼んでいくことも良いきっかけになると思います。役所間の調整が必要な部分もありますので、うまく改善に繋がればいいと思います。
- 会長 区長もこの施設には相当な関心を持っています。何ができるか、どうやるか、今、その検討で頑張っています。  
それでは、次の調査研究テーマ「基金事業の見直し」について 事務局から説明をお願いします。
- 事務局 調査研究テーマ「基金事業の見直し」の検討のため、これまでの基金事業採択団体を対象にアンケートを実施することを前回皆様に確認し、本日は実施状況の報告をします。6月下旬に7月31日締切でアンケート調査を郵送しました。本日までに20団体から回答が提出されています。回収率を上げたいと思いましたので、全団体に電話連絡し、担当を確認した後、発送しました。団体の内訳は、スタートアップ助成事業採択団体が29団体、ステップアップ助成事業採択団体が26団体、ジャンプアップ助成事業が3団体の合計58団体となっています。回答されてきたものの傾向は、事業の継続は20団体のうち、助成金を受ける前と同程度に継続が5団体、拡大して継続が8団体、縮小して継続が3団体、途中で継続し現在ストップが1団体、まったく継続しなかった0、その他が2団体という状況です。また、助成金の活用については、活動が公益的なものと認知され非常に役に立った、継続的・積極的になれた、信用されるようになった、活動の必要性を認めてもらうきっかけになったなどです。回答結果はデータとしてまとめ、次回の会議時に皆様にご説明できるようにします。その説明の結果を基にテーマの整理を行い、見直しの検討に入っていただくこととなりますので、よろしくをお願いします。
- 委員 助成金をもらった団体なので、できるだけ回収率を上げるようにしてください。
- 事務局 そのために、発送前にすべての団体に連絡を入れ、担当者名を確認しました。助成金を受けられているのでご協力を仰ぎ、回収率はできる限り、上げていきます。
- 会長 次回の推進会議の日程を決めたいと思いますので、事務局からお願いします。
- 〈 第4回 区民協働推進会議 10月21日（火） 開催 〉
- 会長 その他 続けて事務局をお願いします。
- 事務局 区民活動コーディネーター養成講座のご案内
- 《 説 明 》
- 会長 それでは、これで審議を終了させていただきます。皆様、本日はありがとうございました。事務局よろしくをお願いします。
- 事務局 これで、本日の会議は終了です。お疲れ様でした。
- 《 終 了 》